

## 「復活の証人として」

ルカによる福音書 24章 1-12節

森島 牧人 牧師

今日は、イエスさまが復活されたことを記念する祝祭日・イースターで、ここに可愛らしく包まれたたまごがあります。どうしてたまごがここに置かれているのでしょうか。それは、たまごからはひよ子という新しい命が生まれて来るからで、十字架の上で死なれたイエスさまが復活されて、私たちに新しい命を示してくださったというイースターの有り様をたまごが表しているからなのです。

もしかしたら皆さんは、主イエスが復活なさったのは、神の子なのだから当たり前で、私たちには関係のないことと考えているかも知れません。しかしそれは大きな間違いで、神さまは、主イエスの復活を信じている一人一人に、主イエスにお与えになったと同じ新しい命をくださるのです。主イエスを通して私たちにも同じ命が与えられる、これがイースターで、そこには神さまや主イエスのことだけではなく、私たちのいのちのことがあるのです。

さて、主イエスが復活なさったのは二千年余り前のことですが、その時その復活の主イエスに最初に出会ったのは、十二弟子を始めとする男性たちではなく、一人の女性でした。今日はその出来事について、聖書に聞いて行きたいと思います。

主イエスが逮捕されるのと同時に、弟子たちを含む男たちはみんな逃げて、誰も主の十字架の死を見ていないのです。しかし、一人になってしまった主イエスの近くには、宣教を共にして来た何人もの女の人たちがいて、主の出来事のすべてを目撃していました。当時女性の地位は低く、子ども同様数にも入れられないという社会状況の中で彼女たちは、ガリラヤに始まりエルサレムで終わる主イエスの伝道生活を、主の近くで支え続けたのです。その中心にいたのがマグダラのマリアで、このマリアこそ復活の主イエスと初めて会った人でした。

なぜ主イエスは最初に彼女に御自分を現わされたのでしょうか。聖書によれば、理由の一つは、主イエスの死が金曜日の午後三時頃ということにあります。当時のユダヤでは夕方六時には次の日となり、しかもそれが土曜日の安息日であったため、急いで亡骸を墓に入れなければなりませんでした。そのため安息日の明けた日曜日の朝早く、マリアは亡骸をきれいにするために墓へと急いだのです。そして主イエスと出会うこととなりました。

もう一つは、主イエスの宣教を支えたマリアは十二弟子ではありませんでしたが、自分も弟子の一人であるとの思いが強かったと思われます。主の死のところまでもとの彼女の固い決意が、マリアをして復活の主イエスとの最初の対面者にしたのではなかったかと思われるのです。

ヨハネ 20：11-16に「マリアは墓の外に立って泣いていた。・・・後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。・・・

・イエスが『マリア』と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で『ラボニ』と言った。『先生』という意味である。」とあります。

十字架のもとで主イエスは死なれた。マリアはそれを確かに見、亡骸が墓に入れられるのも見届けた。にもかかわらず墓にイエスの遺体がない。一体どうなってしまったのか……。涙する彼女に「なぜ泣いているのか。」と問う声がかかりますが、彼女にはその声の主イエスだとは分かりません。私たちにも起こることですが、その時彼女は悲しみに支配されていて、見るべきものが見えなかったのです。主イエスはそんな彼女に近づいて、「マリア」とその名前をお呼びになったのです。

聖書の中には神さまが名前でもその人に呼びかけられる場面がよく出て来ます。神さまはその人の名前をお呼びになると同時に、その人の生き方を新しくし、神さまの使命を生きるようにとされています。例えば旧約のモーセですが、「モーセよ」と彼が神さまに呼ばれた時、彼にはイスラエルの民をエジプトから解放するという使命が与えられていました。

新約では、キリスト教徒への迫害を繰り返していたパウロが「サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と主イエスに呼びかけられ、キリストの福音を宣べ伝える伝道者として召されることになりました。

復活の主イエスに名前を呼ばれたマリアはしっかりと主を見て、その復活を弟子たちに伝えるという主イエスから託された使命を果たしたのでした。主イエスを見ることは、そこに主がおられることを信ずると同じ内容です。その時まで主を近くで見ていたマリアは、この時から自分の心で、言葉で主を伝える者となったのです。

私も「森島牧人よ」と名前を呼ばれて主を見、主を信じて主を伝える者となりました。教会の一人一人に、その名をもって呼びかけておられる主イエス。その言葉に身を向けて主を信じ、与えられた使命を果たしながら主と共に生きて行きたい、それこそが「イースター おめでとう」という出来事だと思うのです。